

ア ジ ア 日 誌

8 月 15 日 — 9 月 14 日

東 ア ジ ア

中国, チベット, 南・北朝鮮,
モンゴル, チベット, 香港, 日
本

8 月 15 日

- ◆中国・東ドイツ62年度文化協力会談終わる。
- ◆廖承志中国アジア・アフリカ連帯委員会主席と劉寧一中華全国総工工会主席, 日本青年学生代表団と会見。

8 月 16 日

- ◆中国とネパール, 国境住民の国籍問題などで覚え書きを交換。
- ◆韓国の最高会議, 同会議の下部機構である再建国民運動本部を国家機構として大統領直屬下に移し, 国民運動を恒久化する方針を発表。
- ◆韓国の陸軍本部普通法会議, 2 主要政党の反革命事件に関連して, 張勉元首相を陰謀援助のかどで起訴。
- ◆コレアン工業振興会社, ソウルの繁華街の東光ビルに日本商品常設展示場を作ると発表。
- ◆韓国の軍検察当局, 軍事政権に批判的な社説を書き取り調べを受けていた高在旭東亜日報主筆を不起訴処分にする決定。

8 月 17 日

- ◆陳毅中国副首相兼外相, 中国は第2回A A会議の開催を全面的に支持し, その成功のために尽力すると言明。
- ◆陳毅副総理, アメリカが引き続きラオスに干渉していると非難。
- ◆陳毅中国外相, 北京のインドネシア大使主催のインドネシア独立祝賀会で西イリアン問題解決歓迎の演説。

8 月 18 日

- ◆日本の訪ソ経済使節団, シベリア視察を完了, 19日から船舶輸出の最

終交渉を行なう。

8 月 19 日

- ◆蔣派特務に広東人民法院死刑を判決。
- ◆韓国の京郷新聞, 韓国外務部は日韓両国間の旅行を制限することに決定したと報道。
- ◆沖縄のアメリカ民政府, 日米援助の本格化に伴い機構を拡充するため, 那覇市の琉球政府ビルの一部明け渡しを同政府に要求。
- ◆沖縄の米軍, 米軍雇用の沖縄人に対し米国債を買い入れることを認める旨通知。

8 月 20 日

- ◆韓国の元首相張勉氏の公判開く。
- ◆インドネシアのスバンドリオ外相来日。

8 月 21 日

- ◆中国, アルジェリアに小麦・鋼材等贈る。
- ◆日韓会談の予備折衝始まる。日本側は請求権問題の打開策として「供与方式」を提示するとともに, 国交正常化の方法として「共同宣言方式」をとりたいとの原則を提示するもよう。
- ◆朝鮮で鋼板工場完成。
- ◆西村厚相, 台湾, 香港, マカオ3地区に調査団を派遣し実情を調査したいと発言, 閣議で了承。
- ◆日本の訪ソ経済使節団, バトリチェフ外国貿易相はじめソ連側首脳と最終会談, シベリア開発を中心に日ソ経済協力を推進することで意見が一致。
- ◆日本の訪ソ経済使節団, 総額9606万ドルにのぼる船舶輸出計画に調印。
- ◆モスクワ放送によると, 訪ソ経済使節団の原純夫東京銀行副頭取とスベシニコフ・ソ連貿易銀行総裁との間に短期のクレジット供与を定めた協定が調印された。

8 月 22 日

- ◆中国・ヴェトナム, ソンコイ川の水産資源保護議定書に調印。
- ◆国府オリンピック委員会, 国際陸連に電報を送り, アジア大会の国府参加に関するインドネシアの態度に抗議, 国府の参加権利の支持を要請。
- ◆韓国外務省当局者, 「日韓関係打開のための請求権問題は額よりも支払い方法が重要である」と述べる。
- ◆カナダ政府, 日本は本年中カナダ向けステンレス洋食器の自主輸出規制を実施することに同意したと発表。
- ◆フルシチョフ首相, 訪ソ経済使節団の質問に答え, 日本が対米依存から独立した国になるよう希望すると語る。

8 月 23 日

- ◆陳毅中国副総理, ラオス臨時連合政府に対するアメリカの陰謀活動を非難。
- ◆台湾NOC, 「われわれはアジア大会参加の権利を放棄するつもりはない」と言明。

8 月 24 日

- ◆中国・キューバ, 62年度科学技術協力協定実行議定書に調印。
- ◆武漢の技術学院を今夏1100人が卒業。
- ◆日韓会談の第2回予備折衝で韓国側から請求権の額と処理方式について対案が出された。韓国案は6億ちかいものといわれる。
- ◆アジア大会日本代表団の首脳部, 陸上競技に参加することを決定。日本の陸上参加の決定を聞いたタイ, 香港両選手団の役員は日本の態度に同調, 韓国も参加することを決定。

8 月 26 日

- ◆タス通信によると, 李強中国対外貿易副部長, 今年上半期の中ソ貿易協定について協議のためモスクワに到着。

◆訪ソ経済使節団河合団長ら12人帰国。空港での記者会見で、ソ連の驚くべき開発テンポなどについて語る。

8月27日

◆中国各人民団体、アメリカのハバナ砲撃を非難。

◆韓国軍事政権首脳、日韓会談をめぐる重要会談を開き、請求権問題は無償供与と借款を厳密に区別するという従来の方針を再確認。

◆ソウル放送によると、韓国軍法会議、前民主党的反革命事件の被告24人に死刑5人をはじめ、最低懲役2年を求刑。

◆ソウル放送によると、韓国海軍は8月27日から9月1日まで済州島から蔚陵島にいたる海域で大規模な演習をすると発表。

◆ソ連宇宙開発の指導者レオニード・セドフ教授、チョルニ・モスクワ大学教授、ステパノフ科学アカデミー技術部員らとともに来日。

8月28日

◆台湾のコレラ発生状況、防疫対策などを調べるため厚生省が派遣するコレラ調査団一行6人台北へ出発。

◆反革命事件に関して起訴されていた韓国政府の元総理張勉氏、陸軍普通軍法会議で革命事業妨害罪と反国家団体構成罪で無期求刑を受け、嗣後に逮捕さる。

8月29日

◆新華社電によると、周恩来中共総理、カンボジアの中立と領土保全のための国際会議開催要請に同意。

◆日韓会談の第3回予備折衝で、韓国やや柔軟な態度を示す。

◆韓国情報部筋、釜山西方の順天市で豪雨のため死者、不明200余名を出したと発表。

◆張都映前韓国国家再建最高会議議長、ミシガン大学に留学のため渡米。

8月30日

◆中国AA連帯委、ギゼンガ氏の釈放要求。

8月31日

◆バーガー米大使、崔韓国外相と会談。日韓交渉へのアメリカ政府の意向を伝達か。

9月1日

◆陳毅中国外交部長、アメリカの核実験停止条約案を非難。

◆陳毅中国外交部長、「アメリカはカンボジア問題に関する国際会議に同意せよ」と演説。

◆日本外務省、10月ごろにビルマとの賠償再検討交渉を再開する方針を固める。

9月2日

◆北朝鮮最高会議、日本の国会へ手紙を送り、「平和統一」の支持を求める。

◆モンゴル人民革命党機関紙ウネン「いつでも日本と平和条約を締結する用意がある」と論評。

9月3日

◆日本の外務省・経団連派遣のマレーシア経済調査団、シンガポールに向けて出発。

◆川島國務相、インドネシアから帰国し、スカルノ大統領が年内に西イリアンの開発について日本側の協力を要請するため訪日したい意向と伝える。

◆テラー米大統領軍事顧問来日。

9月4日

◆中国人民代表大會常務委第62回会議開会。

◆ソ連、U2機のサハリン侵犯でアメリカに激しく抗議。またこの飛行が日本基地から行なわれたと考える理由は充分にあるとして日本にも強く警告。

9月5日

◆中国科学技術団モスクワへ出発。

◆中国の『紅旗』、ユーゴ経済悪化につき論文を発表。

9月6日

◆朝鮮科学技術代表団、北京着。

◆アメリカと韓国、「米韓行政協定締結交渉を再開する」と共同声明を発表。

◆AID（アメリカ国際開発局）、韓国に830万ドルの借款を与えると発表。

◆モンゴルと北ヴェトナム、1963年度貿易と支払いに関する協定に調印。

◆キャラウエー・アメリカ高等弁務官、U2機が将来は沖繩へくる可能

性もあると語る。

9月7日

◆国府、「ラオス連合政府との外交関係を断絶した」と発表。

9月8日

◆アメリカ大統領軍事顧問テラー將軍、金門島を視察。

◆韓国とマラヤ、貿易協定締結について合意に達す。

◆来日したケニアのエンガラ國務相、池田首相に、ケニアの経済開発のための経済および技術援助を要請。

9月9日

◆中国空軍、国府のU2機を撃墜(ANS)。

◆国府空軍、U2機が中国上空で飛行不明になっていることを確認(UP L)。

◆中国、内蒙古森林地帯に鉄道を新設。

◆朝鮮日報、「今後の予備交渉で財産請求権の金額を調整する可能性が見込み薄で、日韓妥協の期待うすれる」と報道。

9月10日

◆中国政府国防部長、U2機を撃墜した空軍部隊を表彰。

◆国府当局、中国本土へのスパイ飛行を当中止すると言明。

◆人民日報、U2機撃墜事件に関して、「これは日本を主要な基地としたアメリカU2型スパイ機の社会主義國家に対するスパイ行為の一環」と論評。

◆日本の婦団連ら13婦人団体代表、政府に「朝鮮の統一」を妨害する日韓会談の打ち切りを申し入れ。

◆日本外務省、イラン大地震の見舞い金3000ドルを同国に贈った、と発表。

9月11日

◆国府のU2機を撃墜した中国人民解放軍空軍部隊、華東地区で祝賀大会を開く。

◆アンモニア・ソーダ法日本4社代表団中国へ出発、塩安の輸出について話し合うため。

9月12日

◆モンゴル・ラオス外交関係樹立。

◆自民党の松村謙三訪中。14日から

約1週間北京に滞在し、周総理、陳
毅外交部長と会談の予定。

9月13日

◆中国・ブルガリア科学技術協力議
定書調印。

◆韓国外務省筋「韓国財界と日本民
間人との経済協力は時期尚早」と語
る。

◆アメリカ上院軍事委、沖縄援助の
プライス修正案を、全額を半分に
修正して可決。

9月14日

◆中国政府、U2機の中国侵犯で、
「これはアメリカ帝国主義の極東と
世界平和に対する挑発」と非難。

東南アジア

フィリピン、タイ、南・北ヴェ
トナム、ラオス、カンボジア、
マラヤ、シンガポール、インド
ネシア、北ボルネオ、オラワク

8月15日

◆フィリピン高官筋、フィリピンは
西イリアンに派遣される国連軍に協
力することにならうと言明。

◆南ヴェトナム民族解放戦線代表
団、東ベルリン着。

◆ヴェトナム人民軍、国際委に非武
装地帯の教師生徒の近親者訪問を認
めるよう要請。

◆ラオス連合政府のボンサバン内
相、14日朝、中立派コン・レ將軍旗
下の部隊は侵犯米戦闘機を撃墜した
と言明。

◆インドネシアとオランダ両国、西
イリアン協定に調印。まず国連が暫
定管理し、明年5月に移管。

◆西イリアン協定の正式調印に伴
い、行政権移管の過渡期間中、約1000
人のアジア人で特別保安部隊を創
設。

◆西イリアン沖でオランダ軍とイン
ドネシア軍が交戦、インドネシア戦
闘機1機が火災を起こす。

8月16日

◆ヴェトナム人民軍、南ヴェトナム
の軍艦侵入に抗議。

◆「ラオスの声」放送、パテト・ラ
オ放送とともに米機のラオス侵犯を
非難。

◆オランダ外務省、同国とインドネ
シアは外交関係の再開にかんし、最
初の覚え書きを交換したと発表。

◆オランダ外相、「アメリカはイン
ドネシアの姿勢をさらに西側に向か
わせるためインドネシアに屈服し
た」とアメリカを非難。

◆国連当局、西イリアンのオランダ
とインドネシア間の停戦を監視する
ため、国連軍将校20人の早急な現地
派遣を準備中。

◆消息筋によると、西イリアンに暫
定的に駐留する国連軍はパキスタン
軍1000人で構成される。

8月17日

◆南ヴェトナムへの軍事物資持ち込
み増加。

◆スファヌボン・ラオス副首相、パ
テト・ラオ軍に捕虜として1年以上
抑留されているアメリカ人5人とフ
ィリピン人1人を釈放すると述べる。

◆ラオス愛国戦線党、外国軍事要員
8人を釈放。

◆カンボジア元首シアヌーク殿下、
越境でタイとアメリカを非難、カン
ボジアの中立と領土保全を保障する
ための国際会議を要求。

◆インドネシアは独立記念日を迎え
盛大な祝賀式を行なった。スカルノ
大統領、群衆に西イリアン協定によ
る平和的解決成功を力強く宣言。

◆アメリカ農務省、余剰綿花1700万
ドルのインドネシア向け放出を承
認。

◆ウ・タント国連事務総長の軍事顧
問、リキエ・インド代将は停戦監視
のため西イリアンに向かう。

◆スウェーデン参謀本部当局、2人の
将校（少佐と大尉）を西イリアンの
停戦監視委員会委員に任命したと発
表。

◆エール政府、コンゴの国連軍に参
加している将校のなかから2人を選
抜して西イリアンに派遣すると発
表。

◆A P通信、国連総長は国連の西イ
リアン管理期間中同地域の警備のた
めマラヤに対し兵員1000人を派遣す
るよう要請したもよう、と報道。

8月18日

◆オランダの通信社によると、西ニ

ューギニアのオランダ、インドネシ
ア両軍間の正式停戦がホランジアで
宣言された。

8月19日

◆アメリカ軍とゴ・シンジェム軍、
大規模な「掃射」作戦を行なう。

8月20日

◆ヴェトナム人民軍連絡代表団、イ
ギリス・マラヤ軍艦のサイゴン入港
に抗議。

◆ラオス連合政府、同国に駐留する
外国軍隊の撤退地点を決めるための
閣議で左右両派対立、合意に至らな
かった。

8月21日

◆サイゴンの物価高騰。

◆北ヴェトナム領海侵犯の南ヴェト
ナム船捕獲さる。

◆南ヴェトナム地上軍、南部作戦で
ヴェトコン（共産ゲリラ）と戦闘、
ヴェトコンは地上戦闘で54人、空軍
の攻撃で80人の死者を出し、南ヴェ
トナム軍は死者6人、負傷者14人
を出した。

◆大平外相、スバンドリオ・インド
ネシア外相と会談、インドネシアに
対する2135万ドルの賠償引き当て借
款を取り決めた書簡を交換。

8月22日

◆サリット・タイ首相、ニュージー
ランド政府がタイ駐留部隊撤収の意
向を申し入れたと語る。

◆アメリカは南ヴェトナムのヴェト
コン（共産ゲリラ）対策を強化する
ため1000万ドルの特別援助をするこ
とで同国と同意に達した。

◆カンボジア人口、約575万人に。

◆インドネシア文部省、来年5月西
イリアンへ派遣される650人の教員
に対する特別訓練の全課程を終了し
たと発表。

◆インドネシアのマラディ・スポー
ツ担当相、国府を非難し、インドネ
シアに対し非友好的なのでアジア大
会からしめ出されるかもしれないと
言明。

◆行政委譲を監視する国連監視団、
西イリアンの首都ホランジアに到
着、その際原住民のパプア人は「国
連はわれわれを家畜のように売り渡
した」と国連に抗議。

8月23日

◆ラオス連合政府、外国軍隊のラオス撤退地点をビエンチャン、ジャール平原、ノマラトの3カ所とすることで合意。

◆インドネシアのスペニ第3外務次官、バンドンで開かれる予定の第2回AA（アジア・アフリカ）会議に23カ国が参加を表明したと発表。

8月24日

◆アメリカのシュリバー平和部隊長官、「アメリカはちかく約400人の平和部隊を東南アジアに増派する」と語る。

◆インドネシア政府、国府とイスラエルを招待するよう要請したAGF（アジア競技連盟）の勧告に対し、「イスラエルは入国を許すが国府の参加は認めない」との正式態度を表明。

◆消息筋によると、オランダ、インドネシア両国は来月の国連総会に提出する西ニューギニアに関する共同決議案で一致。

8月26日

◆新華社電によると、ジュネーブ協定の実施を監視するラオスの中央委員会が発足、活動を開始。

◆シアヌーク殿下、南ヴェトナム当局に最終通告を送る。

◆カンボジア通信社の発表によると、シアヌーク・カンボジア国家元首、タイと南ヴェトナムからの脅威が続けば国民に対し中ソとの同盟を提案すると述べる。

◆オランダ・インドネシア協定の成立後西イリアンから撤退するオランダ海兵隊第1隊撤退。

8月27日

◆シアヌーク・カンボジア元首、フルシチョフ・ソ連首相にメッセージを送り、カンボジアの中立と領土保全を承認、保障するよう要請。

◆ジュネーブ協定による第1回のラオスからの外国軍隊撤退開始。まず北ヴェトナムの将校5人、下士官10人が撤退。

8月28日

◆ゴ・ジンジェム軍で半年間に1万5000人が逃亡。

◆モスクワ放送、フ首相はカンボジ

アのシアヌーク元首のカンボジアの中立と領土保全の承認を要請したメッセージに同意。

◆国連本部、オランダとインドネシア間の西イリアン協定の実施を監督する21人からなる国連軍事監視団を任命。

8月29日

◆新華社電によると、ラオスに駐留していたフィリピン軍事要員撤退を開始。

◆米軍事物資の南ヴェトナム持ちこみにヴェトナム人民軍司令部が抗議。

◆アメリカ、シアヌーク提案に当惑。

◆インドネシア内閣、西イリアン協定調印を承認。

8月30日

◆北ヴェトナム首相、シアヌーク殿下の国際会議開催の提案を支持。

◆ラオスでシアヌーク殿下の提案支持集会。

◆ニューヨーク・タイムズ紙、シアヌーク殿下の中立と領土保全に関する提案「14カ国国際会議召集」はアメリカに痛手と報道。

8月31日

◆アメリカ・フィリピン戦争損害調査書、調印。

◆タイ、シアヌーク殿下の提案を拒否。

◆北京放送、「北ヴェトナムの1961年の機械工業生産は1955年の14倍に増加し、今年度は19倍になる見込み」と報道。

◆カンボジア政府、同国の中立と領土保全に関する国際会議開催を呼びかけたシアヌーク元首の提案に対し、フランスと北ヴェトナムが同意したと発表。

◆インドネシアのスハルト貿易相、AGFのソディ副会長（インド）を非難、対印貿易を停止すると語る。

9月1日

◆米機2機、南ヴェトナムで撃墜される。

◆南ヴェトナムで、政府軍1個大隊と大量の軍事品を積んだ軍用列車爆破。

◆マクミラン・イギリス首相、カンボジアのシアヌーク殿下に書簡を送

り、カンボジアの中立を保障するためカンボジア、タイ、南ヴェトナム3国が会談を開くよう提案。

◆インドネシア議会、西イリアンにかんするインドネシア・オランダ協定を承認。

9月2日

◆ハノイでヴェトナム建国17周年祝賀式典。

◆ドゴール大統領、フランスはカンボジア問題国際会議に出席すると語る。

◆シンガポール、国民投票でマラヤと合併、マレーシア連邦結成を承認。

9月3日

◆タイ外務省スポークスマン、カンボジア、タイ、南ヴェトナム3国会談を開いて国境紛争の解決をはからせるというイギリス提案を受諾するつもりはないと語る。

◆北ヴェトナム山岳地帯の経済的發展有望。

◆ケネディ米大統領、カンボジアの独立保障を目的とする国際会議招集を要請したカンボジア国王の呼びかけに反対との回答を送る。

◆カンボジアのシアヌーク元首、カンボジアの中立を保障する国際会議の代案として、ラオス国際協定調印14カ国が同協定の中立に関する条項にカンボジアを含める追加条項を加え、カンボジアの中立を保障するよう提案。

◆シアヌーク・カンボジア元首、国境をどの国も保障してくれない場合は中国に援助を求めると声明。

◆インドネシア各政党、西イリアン情勢の警戒が必要と強調。

◆ジャカルタで、アジア大会名称変更反対デモ。

9月4日

◆マカバガル・フィリピン大統領、いかなる共産国とも外交関係を持たないと語る。

◆J・E・エング在日米軍司令官、南ヴェトナムを視察。

◆ラオスのパテト・ラオ放送、カンボジア元首シアヌーク殿下提案のカンボジア国際会議開催を支持すると報道。

◆ラオス連合政府成立後初の大臣会議開く。中国、北ヴェトナム、東ド

イツなどと国交樹立を承認。

◆日本のマレーシア経済調査団、シンガポール当局と会談。当地の労働事情や工場誘致の問題など検討。

9月5日

◆アメリカ政府当局、南ヴェトナムには政府軍の指導、訓練に当たっている米軍将兵が約1万人いると説明。

◆駐ラオス北ヴェトナム代理大使、「ラオスは北ヴェトナムと正式に外交関係を樹立し、大使を交換することになった」と言明。

9月6日

◆タイ、国連にカンボジアとの国境紛争に関し調査員を派遣するよう要請。

◆ヴェトナム人民軍、アメリカの南ヴェトナムへの要員、艦船、軍用機の派遣停止を要求。

◆ラオス、チェコと外交関係を樹立、大使級を交換することを決定。

◆ウ・タント国連事務総長、西イリアンのオランダ軍は11月15日までに撤退すると発表。

9月7日

◆フィリピン政府、イギリス、マラヤ両国に覚え書きを送り「北ボルネオが今後結成されるマレーシア連邦に編入されることは認めない」と通告。

◆タイ・ビルマ「死の鉄道」協会、日本、イギリス、マラヤ各国政府に対する補償要求についての覚え書きを国連と国際司法裁判所に送ることを決定。

◆日本のタイ向け投資ふえる。

◆パテト・ラオ放送、SEATOの解散を要求。

◆ラオス政府、中国および北ヴェトナムと正式に外交関係を樹立することに決定したと発表。

◆ラオスのプーマ首相、カンボジア国際会議開催に同意する旨通告。

◆シンガポール経済開発局、石川島重工業と同局の折半出資で同地に造船所を建設すると発表。

◆オランダ下院、西イリアンに関するオランダ・インドネシア協定を承認。

9月8日

◆南ヴェトナム、カンボジア国際会

議を呼びかけたシアヌーク殿下の提案を拒否。

◆南ヴェトナム高官筋「南ヴェトナムはラオスの北ヴェトナム承認を理由にラオスとの外交関係を断絶しない」と言明。

◆ラオス政府、ポーランドと正式な外交関係を樹立し、大使を交換すると発表。

◆ラオス政府、ラオス問題ジュネーブ会議参加国に親善使節団派遣を決定。

◆フィリピン軍事委員第2陣、ラオスから撤退。

◆インドネシア、西イリアン建設計画作成。

9月9日

◆ニューズウィーク特派員、サイゴンから追放さる。ヴェトナムに関して書いた記事がサイゴン新聞の社説で叩かれ、ビザ延長申請が認められなかったもの。

◆日本経団連のマレーシア経済調査団、マラヤのクアラルンプールに到着。

9月10日

◆シャム湾で、アメリカ・タイ「対潜合同演習」。

◆テラー米大統領軍事顧問、サイゴンに到着。同大將の南ヴェトナム訪問は過去1年のうち2度目のもの。

◆インドネシア、中部スマトラの石油資源共同開発の細目を発表。

9月11日

◆アメリカ、タイに「アメリカはカンボジアへ軍事援助を増強することに決定した」と通告。

◆北ヴェトナム労働党機関紙「ニャンザン」、「アメリカが軍隊と軍事委員をラオスから引き揚げようとせず同地で破壊活動を進めており、ラオスの不安は続いている」と論評。

◆カンボジア軍司令部、南ヴェトナムがカンボジア国境を侵犯し、国境の村を攻撃したとの非難の声明を発表。

◆アメリカ、グアム島にポラリス潜水艦基地建設。

9月12日

◆ファンバンドン・北ヴェトナム首

相、ユニテ記者と会見し、内外の政策を説明。

◆ラオス政府、ハンガリーおよびモンゴルと外交関係を樹立、大使を交換すると発表。

◆カンボジアのシアヌーク殿下、南ヴェトナムに、「今後あと2回国境を侵犯すれば、同国との外交関係を断絶し、北ヴェトナムと正常な外交関係を開く」と通告。

◆インドネシア、西イリアン開発隊を結成。

9月13日

◆タイ外務省、SEATO外相会議が月末にニューヨークカワシントンで開かれると発表。

◆南ヴェトナム人民、政府軍の設けた436の強制収容所「戦略村」を破壊。

◆ラオス政府、ブルガリアと国交関係を樹立、大使級を交換することを決定。

◆オランダ、西イリアン協定を批准。

◆インドネシア工鉱業相、「西イリアンがインドネシアに移管されれば、採鉱に関する現行の法律、条例のすべては自動的に西イリアンに適用される」と語る。

9月14日

◆マカバガル・フィリピン大統領、「国内繊維産業保護のため繊維品の輸入関税率を大幅に引き上げるよう指令した」と発表。

南 ア ジ ア

インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、ネパール、ブータン

8月15日

◆インド農民、農地増額反対デモ。

8月17日

◆ワシントンのVOA放送によると、ネール・インド首相、インドはアメリカの援助による通信衛星計画の開発を予定、米エクスプローラー衛星から受信するための宇宙センターがすでに建設されたと発表。

◆メノン・インド国防相、インドが超音速航空機のソ連製エンジンの製作についてソ連と協定に達し、1963

年からインドで生産を開始すると述べる。

◆インド外務省、国連はインド軍将校6人を西イリアンに派遣するよう要請し、インド政府はそれについて検討していると述べる。

◆バンコックの米大使館当局、中部タイのコラト駐留の米歩兵部隊2200人に交代命令を出したと発表。

8月19日

◆パキスタン政府、第1級政治犯として留置中のスラワルジ元首相を釈放。

8月21日

◆インド共産党全国会議、中印国境紛争問題でとったインド政府の措置を支持。

8月22日

◆ネール・インド首相、中印国境問題解決は中共軍のラダク地区撤退が先決だと言明。

◆消息筋によると、インドは中国へ新しい覚え書きを送り、中印国境の緊張を緩和するための予備交渉を開くよう提案。

8月23日

◆インド政府、中国の英文雑誌『ベキン・レビュー』7月13日号の中印国境問題に関する記事は、インドの領土保全と国境線に疑問を投げかけるものであるとしてインド内にある同誌の没収を指令。

◆パキスタン国連代表部、パキスタン政府は国連事務総長の要請に応じ西イリアンに約1000人の保安隊を派遣することを決定したと発表。

8月24日

◆ニューヨーク・タイムズ紙によると、アメリカ政府はインドがソ連のミグ21型ジェット戦闘機を買い付け、同機を国内生産することを黙認することになったといわれる。

8月25日

◆北京放送、インド軍隊が最近ふたたび中国側部隊に対し発砲、挑発を行ない、現地的情勢は重大化しつつあると報道。

◆丸紅飲田、インドの財閥会社ダランカドラ・ケミカル社あてに、カーバイト、塩化ビニールプラント、製

造技術を輸出することになったと発表。

8月26日

◆インド外務省スポークスマン、北京放送が25日伝えたインド軍の発砲事件を否定。

8月28日

◆ネール・インド首相、東北部アッサム州のナガ山岳地方を独立の自治州とする法案を議会に提出。

8月30日

◆消息筋によると、インド政府はすでにソ連のミグ・ジェット戦闘機を1個中隊分発注、2カ月以内に引き渡しを受ける予定。

◆ビルマ政府、ソ連と貯水池建設の経済技術援助として700万ドルの長期借款協定に調印。

8月31日

◆インド政府、今後5年間に鉄鉱石の輸出を倍加する措置を遂行中。

9月1日

◆ソ連・セイロン文化協力計画調印さる。

9月4日

◆インドが、第3次5カ年計画のためにイギリスから受ける1800万ポンドの借款協定調印さる。

◆インド、国境紛争について討議するため中国が代表を派遣するよう要請。

◆ネール・インド首相、「インド政府はカシミール問題の最終的解決を得るためこの問題を国連に持ち出す意図はない」と語る。

◆パキスタンのサイド・ウド・ディン代将、西イリアン秩序維持にあたる国連軍司令官としてホランジアに着任。

9月5日

◆インド・アラブ連合原子力協定調印。

◆ビルマのオン・ジー通産相、「ビルマはもはや外国資本を求めず、今後は合弁事業を奨励しない」と語る。

◆ジュリバー米平和部隊長官、スラバヤを訪問。

9月6日

◆ソ連・インド技術援助契約調印さ

る。これによりインドはビハール州のホルバ炭田に最新技術で装備された中央電気機械修理場建設のためソ連から設備と資材の提供を受ける。

◆メノン・インド国防相、「パキスタンのカシミール停戦ライン侵犯が顕著になった」と語る。

9月7日

◆パキスタン初の商船大学開校。

9月8日

◆ネール・インド首相、イギリスのEEC加盟は英連邦を弱体化すると語る。

9月10日

◆インドの人口著増。1961年の調査によると、インドの人口は4億3900万強で10年前に比べて農村人口は約19%、都市人口は約36%の増加。

◆インド、初の国産旅客機を公開。
◆アメリカがパキスタンに与える、鉄道施設買入れのための3000万ドルの長期借款協定調印さる。

◆東パキスタンの水害被災者、アメリカからおくれたアメリカ小麦の配給をうけ始める。

9月12日

◆インド・アフガニスタン通商協定調印さる。

9月13日

◆インド軍、中印国境のマクマホン・ラインを越え、中国領内に拠点を設置。

◆アメリカ、パキスタンに4500万ドルの第2回借款を供与。

9月14日

◆インド外務省、インド東北国境軍を増強していると発表。

西南アジア

アフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、シリア、バーレン、クエート、カタール

8月15日

◆アフガニスタン国王、ソ連から帰国。

◆中東通信、アラブ連合がシリアの内政干渉を行なっているというシリ

アの非難を討議するため、22日アラブ連盟特別理事会を開くと発表。

8月16日

◆トルコ国防省当局、トルコのジェット機はトルコに侵入したイラクのジェット機2機と交戦したと語る。

8月18日

◆タル・ヨルダン首相、フセイン・ヨルダン国王殺害の陰謀が発見され、また同首相らの暗殺の他の2つの計画も発覚したと述べる。

8月20日

◆シリア・ソ連文化協力協定調印。

8月21日

◆イスラエル・オリンピック委員の一メンバーによると、同国は第4回アジア競技大会への参加を辞退することに決定。

8月22日

◆ジョンソン米副大統領夫妻、レバノン、キプロス、イラン、ギリシャ、トルコを訪問のため出発。

8月26日

◆アフガニスタン首相、非同盟政策堅持をふたたび表明。

8月29日

◆ヨルダン、サウジアラビアの両国、共同コミュニケで両国軍隊の統合に同意し、統合最高司令部を設置すると発表。

8月31日

◆シリアのクドシ大統領、アルジェリア内戦を防止するため北アフリカのアラブ諸国が調停に立つことを呼びかける。

◆アラブ連盟特別理事会、シリアの提訴に対する結論を避けて同理事会を延期することに決定。

◆ジョンソン米副大統領、中東での訪問旅行終わる。

9月2日

◆イランで強い地震がおり、死者数千人。

◆サウジアラビア、シリアに、サウジアラビアとヨルダンの軍事経済統合案の草案を伝達。

9月8日

◆中近東に派遣されるアメリカの「平和部隊」第1陣、イラン、トル

コ、キプロスに到着。

9月10日

◆イエメンで激しい反国王デモ。政府は非常事態を宣言。

9月12日

◆イラン、イラン地震の死者はすでに1万人以上発掘したと発表。

9月13日

◆フランス外務省、サウジアラビアと外交関係を再開したと発表。

9月14日

◆シリアのアズメ首相辞職。クドシ大統領は後継内閣首班にアゼム元首相を任命。アゼム新首相、外交の基礎に中立、国連尊重をおくと声明。

◆シリアの農地改革省、「4月から9月までに2万3573ヘクタールの土地を農民に分配した」と発表。

アフリカ

8月16日

◆ラスク国務長官、国連総長との非公式会談でコンゴ問題を討議したもよう。

◆アルジェリア、アラブ連盟に加盟。

◆アラブ連盟理事会、アルジェリアの同連盟加盟を満場一致で可決。

◆フランスとチュニジア、両国の大使を相互に承認。

8月17日

◆コンゴ駐在のガードナー国連首席代表、カタンガ州のキンバ外相に覚え書きを送り、カタンガ政府が同州北東部でのすべての軍事行動を中止するため即時効果的措置をとらない場合、国連はやむなくあらゆる手段で介入することになると警告。

8月18日

◆コンゴ通信、ギゼンが・コンゴ元副首相は過去4日間のハンストで目下ひん死の重体だと報道。

8月19日

◆アルジェの当局筋によると、アルジェリア制憲議会の候補者の割合は軍人7割、民間候補者3割。

◆スワジランド、西欧系会社と鉄鉱開発協定に調印。

8月20日

◆アジア・アフリカ39カ国とユーゴは国連事務局に「南アフリカ共和国における人種差別政策」を第17回国連総会の議題に加えるよう要請。

◆ウ・タント国連事務総長、コンゴ政府をカタンガ州政府を和解させるための計画を発表、そのなかで30日以内に新憲法の草案を完成すべきこと。カタンガ州が国連の諸計画を受諾せねば経済制裁を加えることなどを述べる。

8月21日

◆レオポルドビルの消息筋によるとアドゥラ・コンゴ中央政府首相は国連事務総長が発表したカタンガ州との和解計画案のすべてを受諾。

◆コンゴ・カタンガ州のツォンベ首相、カタンガ州は自治州として連邦に参加したいと述べる。

8月23日

◆ウェレンスキー中央アフリカ連邦首相、国内産業刺激政策として各種商品の関税を2.5%~15%方引きあげ24日以降実施すると発表。

8月24日

◆アルジェリア民族解放軍(ALN)の第3・4管区、共同コミュニケでFLN政治局がALNの改組をしようとしていることに不満を表明。

◆国連、コンゴ統一案を発表、これによると中央政府は外交、国防、財政を含む政府各省の大幅な統制権を握ることになっている。

◆ナイジェリア首相、全文官を自国人にと声明。

8月25日

◆アルジェリア民族解放戦線(FLN)の政治局、軍部の反乱で混乱のため9月2日の総選挙は真の平和の条件が確立されるまで延期すると声明を発表。

8月26日

◆アルジェリア第4管区軍首脳、ベンベラ副首相の率いる政治局の行動こそ反乱であると非難し、アルジェリア革命評議会(GNRA)の緊急会議招集を要求。

◆アルジェリア第5管区を含む西アルジェリアの軍指導者ら、決議案を採択し、ベンベラ派の政治局を無条件支持するとの態度を表明。

◆アドゥラ・コンゴ中央政府首相、カタンガ問題終結のための国連のコンゴ統一案を受諾すると発表。

8月27日

◆FLN政治局、第4軍管区に最後通告を出し敵対行為停止を要求。

8月28日

◆フランスとアルジェリアは両国間の協力関係を規定した9つの議定書に調印、両国協力の条件を確立。

◆中東通信、アラブ連合がアラブ連盟から脱退を決定したと報道。

◆ガーナ政府はアジェイ外相、アダマフィオ情報相、与党会議人民党のクラブ執行委員の逮捕を命令。

8月29日

◆ベンベラ派と反対派の激しい撃ち合いでアルジェ全市が混乱状態。

◆カイロ放送によると、アラブ人民連盟結成のための準備委発足。

8月31日

◆アルジェ市街で、ベンベラ派と反対派の戦闘に抗議して民衆数万人がデモ。

9月2日

◆アラブ連合で約4000万トンの石炭の鉱脈、5億トンの鉄鉱石などの埋蔵を発見。

◆モロッコ軍に提供されるソ連製戦車がカサブランカ港に到着。

9月3日

◆コンゴのカタンガ政府、コンゴ中央政府とカタンガ政府の和解とコンゴ再統一を目的としたウ・タント国連事務総長の提案を受諾を発表。

◆エンクルマ・ガーナ首相は10日からロンドンで開かれる英連邦首相会議に出席しないと発表。

9月4日

◆アルジェリアのベンベラ副首相、「政治局と第3・4軍管区首脳との間にアルジェを非武装地帯とするとの合意に達した」と発表。

9月5日

◆アルジェリア政治局、全部隊に停戦を命令。

◆ソ連寄贈のエチオピア工業学校ちかく完成。

9月6日

◆モスクワ放送、ソ連民間航空局が間もなくモスクワ・アフリカ間に新空路を開くと報道。

9月7日

◆ガット加盟国、アラブ連合のガット加盟申請を受理。

◆アラブ連合とアメリカ、タバコ輸入協定に調印。

9月8日

◆アルジェリア臨時政府、選挙の日取りを9月20日とすることに決定。

◆ガーナ議会、エンクルマ大統領を終身大統領とする動議を可決。

9月9日

◆ナセル・アラブ連合大統領、アラブ連合は当分の間アラブ連盟から脱退しないと発表。

9月10日

◆ガーナ大統領官邸近くで爆発事件おこる。

9月12日

◆コンゴのカタンガ州憲兵部隊、国連軍と衝突。

9月14日

◆エンクルマ・ガーナ大統領、EECに対抗するアフリカ共同市場の創設を提唱。

◆マダガスカル連盟首脳者会議終わる。

◆タンガニーカとウガンダ、EECとの連携拒否の方針を決定。

そ の 他

8月20日

◆国連スポークスマンによると、ウ・タント国連事務総長は西イリアンを国連が管理するための軍隊1000人の派遣をパキスタン政府に要請。

8月22日

◆AGF実行委員会、国府、イスラエルの参加をインドネシア政府に強く要請。

8月24日

◆AGF総会、台湾、イスラエル両国の再招待を決議。

◆台湾・イスラエル不参加のままアジア大会開会式を強行。日本など17

カ国が入場。

◆浅野国際陸連理事、国際陸連としてはイスラエルを参加させても台湾を拒否した場合、アジア大会を認めず、強行出場するチームは同連盟から除名すると強硬な態度を表明。

8月25日

◆国際陸連、第4回アジア大会の形態を「スポーツ祭典」に変えて参加するよう要求。

◆「第4回アジア大会の陸上競技に参加する」との共同宣言に日本など11カ国がサイン。

8月27日

◆AGF、第4回アジア大会は国府、イスラエルが除外されているためこの大会を「アジア大会」と呼ばないと発表。

9月1日

◆キューバで政府転覆の陰謀が発覚し200人余を逮捕。

9月2日

◆モスクワ放送、「キューバとソ連の武器援助協定が調印された」と報道。

9月4日

◆アジア競技大会閉幕。

9月5日

◆ボリビア、OASの活動不参加を決定。

◆ボリビア大統領、9月予定のアメリカ訪問を延期。

9月6日

◆ブルジル政府、外国資本の利潤を制限する法律を制定。

9月8日

◆ラスク米国務長官、SEATO強化を主張。

9月11日

◆AA連帯委書記局、U2機による米の対ソ・中軍事挑発に抗議。

9月12日

◆ソ連漁業代表キューバに到着。一行は漁場調査とキューバ人漁夫の訓練にあたる。

9月14日

◆英連邦首相会議、イギリスのEEC加盟問題等で苦悩。